

「リアルタイム津波浸水被害予測システムの開発と運用」が 第1回日本オープンイノベーション大賞「総務大臣賞」を受賞

グリーン・コミュニティの実現を目指す日本アジアグループ株式会社(コード:3751、本社:東京都千代田区、代表取締役会長兼社長:山下 哲生、以下「日本アジアグループ」)傘下の国際航業株式会社(代表取締役社長:土方 聡、以下「国際航業」)が、東北大学、日本電気株式会社、株式会社エイツーと共に開発した「リアルタイム津波浸水被害予測システム」が、このたび第1回日本オープンイノベーション大賞「総務大臣賞」を受賞いたしました。

日本オープンイノベーション大賞は、我が国のオープンイノベーションの推進を目的に、今後のロールモデルとして期待される先導性や独創性の高い取組を表彰するもので、内閣府が取りまとめを行い、2017年度までの「産学官連携功労者表彰」の継続表彰として、2018年度より開始されたものです。

今回受賞の「リアルタイム津波浸水被害予測システム」は、国際航業ら研究参画メンバーが2013年より開始の産学連携研究により、世界初の「スーパーコンピュータによるリアルタイム津波浸水被害予測技術」を実用化したもので、本技術は、内閣府の津波浸水被害予測システムとして採用され、2017年11月より試験運用、2018年4月より本格運用に至ります。さらに、2018年3月には、本技術を社会に広く普及するため、国際航業ら本研究参画メンバーによるベンチャー企業「株式会社RTi-cast」を設立し、リアルタイム津波浸水被害予測システムのさらなる高度化、実用化に向けた開発、システムの構築・運用の一役を担っております。

受賞にあたり評価されたのは、スーパーコンピュータの災害時活用により、津波の浸水による人的・建物被害予測を地震発生から20分以内を目安に完了させ、国の災害対応の基盤情報に組み込むことができる、また災害に対するレジリエンス(回復力)の向上とわが国の国土強靱化に資する重要な貢献である点です。また、ベンチャー企業「株式会社RTi-cast」の設立によるイノベーション創出活動の強化についても高く評価を得ました。

日本アジアグループおよび国際航業は、Society5.0で示される科学技術の発展と、社会の変化の中で培った最先端のセンシング解析技術を磨き続け、安心して安全なまちづくりに貢献し、SDGsを追求する会社であり続けます。

■内閣府_日本オープンイノベーション大賞(Japan Open Innovation Prize(JOIP))

<https://www8.cao.go.jp/cstp/openinnovation/prize/index.html>

■東北大・大阪大・NEC・国際航業・エイツー 世界初、地震発生から30分以内にスーパーコンピュータを用いて津波浸水被害を推計するシステムが 内閣府「津波浸水被害推定システム」として採用

<http://www.kkc.co.jp/cms/pdf/1752/2017-05-25.pdf>

■東北大・国際航業・エィター・NEC リアルタイムに津波浸水被害を推定する技術を核とした共同出資会社「RTi-cast」を設立

<http://www.kkc.co.jp/cms/pdf/1958/2018-05-10.pdf>

【お問い合わせ先】

日本アジアグループ株式会社 コーポレート・コミュニケーション部 国際航業広報担当

TEL: 03-4476-8007 e-mail: press@japanasiagroup.jp URL: <https://www.japanasiagroup.jp/>